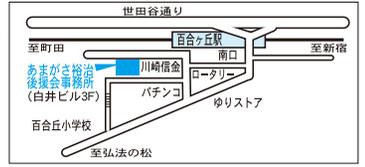




発行所/みらい川崎市議会議員団事務局
 〒210-8577
 川崎市川崎区宮本町1番地 川崎市役所第二庁舎内
 TEL:044-200-3355 FAX:044-245-4135

百合丘事務所 〒215-0011
 川崎市麻生区百合丘1-20-7 白井ビル3F
 小田急線百合ヶ丘駅下車徒歩1分
 TEL・FAX:044-955-2417
 メール: amagasa@khaki.plala.or.jp



ホームページ: <http://www.e-amagasa.net> Facebook、ツイッターでも情報発信しています。

新百合ヶ丘駅～あざみ野駅を結ぶ 横浜市営地下鉄3号線事業化は目前です。



新しく生まれかわる
新百合ヶ丘駅周辺に
求めたいことについて
みなさんのご意見を!

福田・川崎市長にも
選挙公約実行を求めています

福田市長は2013年の選挙で、自分の公費ポスターに「横浜市営地下鉄3号線の延伸」を記載、特記しています



川崎市議会議員
あまがさ ゆうじ
裕治

厳寒の候皆様いかがお過ごしでしょうか。
 これまでの私が行った横浜市営地下鉄3号線あざみ野～新百合ヶ丘延伸に関するアンケート調査は地下鉄延伸と、まちづくりあわせて何回、何年にわたり、何千万円をも投入し本来行政が行うべき調査を先行して実施するなどまさに延伸実現に向け、市民の協力を得てムーブメントを作ってきました。

多くの調査結果を川崎市、横浜市に渡してきました。そのなかにおいても特にルートについての意向調査を始めとした周辺地域事情などは両市ともに有益な資料として活用されてきました。今後ともいただいた意見は反映されていくと思われま。

平成31年度に川崎市は新百合ヶ丘乗り入れの為の本格的な調査に取り掛かり、いよいよそれに伴いルートが決定され、構造も見えてくる局面を迎えることとなります。

実現に向けての具体的な取り組みが急激に加速していく中で、現在私は交通政策審議会で示された乗り換え5分以内という条件に合致する南口の候補地や、ルートを曲げる為に必要と予想される土地(空地更地)情報の提供、又、新百合ヶ丘駅周辺再開発の為に絶対必要条件となるバスターミナルの一時移設のための代替地の確保などの検討材料を提供しています。



様々々と変化を遂げる地域環境事情をいち早く取り入れ、事業化判断が既に確定していく中においても遅滞なく進む様に努力しています。

横浜市では収支採算性と事業スキームについて最終判断をするとしてい

ますが、既に交通政策審議会の答申時に国交省は費用便益比を厳しく見込んでOKを出しており、**需要規模は1日あたり45,000～53,000人で、概算事業費は1,300～1,500億円、累積資金収支は23～31年目で黒字転換すると試算されていますので、収支採算性の不安は最初から無いのです。**

加えて、横浜市とのヒアリングにおいて、新百合ヶ丘駅構造については、現存の起終点駅の一般的な構造で算定するので、駅構造が確定していなくても事業判断はしっかり出していくとしています。

又、川崎市としては延伸距離を6キロまたは7キロとしていますが、この意味は暫定的に約6.7や6.8キロ位の想定で算出しておくという意味で距離が短くなれば、後で必要なくなった距離分を補正していくという考え方で進めていきます。

次に、市民への説明意見聴取を機会あるたびに川崎市、横浜市に開催する様求めてきましたが、具体化していく中で、両市とも丁寧な市民への説明機会の確保(横浜市11/27都市整備局とのヒアリングにおいて滞滞なく事業を進めるが、丁寧な説明必要との考え方を明らかにしました。川崎市においても12/6代表質問答弁*裏面参照)を約束しました。

更に2年前に提言した両市のバス路線再編については、この地下鉄延伸対象エリアにおける交通利便性の向上をにらんでいくとの方向性を示しました。

最後に、みらい市議団による福田川崎市長への平成31年度予算要望(平成30年12月13日)の際に、横浜市長が1月末に実施が予定される予算の発表において、事業実施が確定的になる可能性が高いという横浜市議会議員からの情報を私から川崎市長に伝え、本市の取り組みについても一層の努力をする様に申し入れました。

平成30年11月26日川崎市まちづくり局交通政策室に確認しました

<調整状況等>

■横浜市との協議状況

ルートの考え方、事業スキーム等に関する検討、協議を実施し、今年度から新百合ヶ丘駅に関する基礎的な検討を行っている。横浜市による事業化判断に向け、事業手法や費用負担のあり方など協議を深めている。

○平成30年度における横浜市との連絡会実績

副市長級 2回(7月、11月) 部長級 2回(6月、11月)、課長級 高頻度で実施 係長級 高頻度で実施

■小田急電鉄との意見交換

横浜市、川崎市の3者で引き続き意見交換を実施

■川崎市市内における作業状況

新百合ヶ丘駅に関する基礎的な検討に着手。昨年度から引き続き、延伸分のルートや中間駅のあり方、まちづくりについて、関係課と意見交換を行っている。

<土質調査の実施>

今後のルート検討に幅広く活用するため、昨年度に引き続き、調査を実施。(平成30年9月より現場に着手)。土質調査実施は、ある程度の作業範囲が必要なので、近隣への影響を低減することなどを優先し、可能な限り、公園や道路の公有地を活用して実施している。

<先行事例のヒアリング>

■横浜市営地下鉄ブルーライン戸塚～湘南台(藤沢市域)における建設費総額

横浜市によると、戸塚から湘南台(延長7.4キロ)の建設費は1642億円。

藤沢市域分の地方公共団体補助金の負担割合については、神奈川県が3分の2、藤沢市が3分の1。

■横浜市営地下鉄ブルーラインのあざみ野から新百合ヶ丘間延伸の建設費総額見込み

過去に横浜市が実施した次世代の総合的な交通体系の構築に向けた検討(平成26年2月)では、概ね1300～1500億円と試算した経緯がある。現時点において、横浜市からは平成30年度内の事業化判断に向けて精査中。

■小田急線の東京都内複々線化における建設費総額と小田急電鉄・東京都・世田谷区の負担割合

東北沢から和泉多摩川間(約10.4キロ)の事業費

【参考】連続立体交差事業の高架区間における事業費の負担割合 単位:億円

	都市側(国、都、区(市))※1.2	小田急電鉄
連続立体交差事業	1,830	160
複々線化事業	0	3,040
小計	1,830	3,200
合計	5,030	

(出典:「道路と鉄道の連続立体交差事業」東京都)

	国	都	区又は市	小田急電鉄
区部	約42%	約30%	約13%(区)	約15%
多摩部	約45%	約32%	約13%(市)	約10%

※1:負担割合は、国1/2、都および区市1/2。※2:都と区市の負担割合は協議により定めている。

※地下区間における事業費の負担割合は、鉄道事業者との協議により定めている。

このまちで暮らしている実感を聞かせてください

【設問1】 あなたが新百合ヶ丘駅周辺エリアに求めるものは
 どんなことでしょうか?(複数回答可)

- 1)ショッピングセンターなど商業施設
- 2)飲食店
- 3)行政機能
- 4)芸術文化関連施設
- 5)スポーツ施設
- 6)アミューズメント系施設
- 7)教育施設
- 8)オフィス施設
- 9)その他

具体的に

【設問2】 これからのまちづくりにとって大切なポイントだと思うことを
 お書きください。

[]

【設問3】 皆さんのお住いの地域の変化などお聞かせください。

[]

お住まいは? **麻生区** ・ **丁目**

※集計の上、川崎市に提出しますので必ず町番を御記入下さい